



# 「JENESYS2018」中国高校生訪日団第3陣(招へいプログラム)の記録 (対象国:中国、テーマ:高齢化社会と老人介護)

## 1. プログラム概要

中国教育部が派遣した中国高校生訪日団第3陣計199名が、12月4日から12月12日までの8泊9日の日程で来日しました(団長 房衛青(ボウ・エイセイ)北京市教育委員会 人事処 副処長)。一行は6つのグループに分かれ、東京都のほか、栃木県、群馬県、静岡県、愛知県、岐阜県、京都府、三重県、山口県、福岡県、香川県、岡山県を訪問。各地の高校を訪問し、日本の高校生との交流を通じて、同世代同士の友情を深めました。また、老人福祉施設や関係施設の視察などを通じ、プログラムのテーマである高齢化社会と老人介護について学んだ他、ホームステイ体験、地方の歴史、自然、文化等の見学などを通じ、日本の魅力を体感しました。中国高校生は今回の訪日で多くの人々と交流し、日本人の考え方に触れ、様々な角度から日本理解を深めることができ、見聞したことや体験したことを自身のSNS等を通じて発信しました。また、報告会では、帰国後のアクション・プラン(活動計画)について、各グループの代表が発表しました。

【訪問地】東京都(全員)、栃木県(34名)、群馬県(34名)、静岡県(33名)、愛知県(66名)、岐阜県(33名)、京都府(34名)、三重県(34名)、山口県(32名)、福岡県(32名)、香川県(33名)、岡山県(33名)

## 2. 日程

12月4日 (火)

羽田空港より入国

●共通プログラム:東京都

【オリエンテーション】

12月5日(水)※2コースに分かれてプログラムを実施

●共通プログラム:東京都

【テーマに関するセミナー】テーマ:「加齢変化を知り、高齢者と向き合う」

【歓迎会】

 $lackbox{A} = A = A$ 

【見学】日本科学未来館、都庁展望台

●B コース

【見学】浅草、江戸東京博物館

## 12月6日(木)~12月10日(月)※6グループに分かれてプログラムを実施

●A コース グループ 1: 栃木県/群馬県

【学校訪問】栃木県立宇都宮北高等学校、群馬県立尾瀬高等学校

【テーマに関する視察】国際医療福祉大学、関連福祉施設

【見学】日光東照宮

【体験】こけし絵付、ホームステイ (栃木県大田原市)

【ワークショップ】

●A コース グループ 2: 静岡県/愛知県

【学校訪問】静岡県立三島北高等学校、愛知県立蒲郡高等学校

【テーマに関する視察】三島市老人福祉センター

【見学】三保松原、名古屋城、トヨタ博物館、ガスエネルギー館

【体験】和風旅館、伝統工芸品作り

【ワークショップ】

●A コース グループ 3:岐阜県/愛知県

【学校訪問】岐阜県立大垣北高等学校、名古屋市立北高等学校

【テーマに関する視察】グループホーム・デイサービスハッピー桜

【見学】名勝虎渓山永保寺、馬籠宿、中山道広重美術館、トヨタ産業技術記念館、

犬山城

【体験】和風旅館、茶道体験

【ワークショップ】

●B コース グループ 1: 京都府/三重県

【学校訪問】京都府立北嵯峨高等学校、三重県立名張青峰高等学校

【テーマに関する視察】花友じゅらくだい

【見学】嵐山、伏見稲荷大社、平等院、伊賀上野城、伊賀流忍者博物館

【体験】友禅染体験、ホームステイ(京都府和東町)

【ワークショップ】

●B コース グループ 2:山口県/福岡県

【学校訪問】山口県立下関中等教育学校、福岡県立武蔵台高等学校

【テーマに関する視察】介護老人福祉施設いしずえ荘

【見学】小倉城庭園、TOTO ミュージアム、火の山公園、長府毛利邸、唐戸市場、太 宰府天満宮

【体験】木うそ作り、ホームステイ (福岡県朝倉市)

【ワークショップ】

●B コース グループ 3:香川県/岡山県

【学校訪問】香川県立三木高等学校、岡山県立玉島商業高等学校

【テーマに関する視察】特別養護老人ホーム 旭川敬老園

【見学】石丸製麺、栗林公園、倉敷美観地区

【体験】抹茶体験、ホームステイ(岡山県瀬戸内市)

【ワークショップ】

## 12月11日(火)

●共通プログラム:東京都

【歓送報告会】訪日成果、帰国後の活動計画発表

## 12月12日(水)

 $lackbox{A} \supset - \mathcal{A}$ 

羽田空港より出国

ulletB  $\neg \neg$ 

【見学】国会議事堂、日本科学未来館

羽田空港より出国

## 3. プログラム記録写真

## 〈共通〉 (訪問地:東京都)



12月5日【テーマに関するセミナー】「加齢変化を知り、高齢者と向き合う」



12月5日【歓迎会】



12月11日【歓送報告会】団員による感想・アクション・プラン発表



12月12日【見学】国会議事堂

# < A コース グループ 1> (訪問地:栃木県、群馬県)



12月6日【見学】日光東照宮



12月7日【学校訪問】栃木県立宇都宮北高 等学校



12月8日【テーマに関する視察】国際医療 福祉大学



12月8日【体験】ホームステイ(栃木県大田原市)



12月9日【体験】こけし絵付



12月10日【学校訪問】群馬県立尾瀬高等学校

# <A コース グループ 2> (訪問地:静岡県、愛知県)



12月6日【テーマに関する視察】三島市老人福祉センター

12月7日【学校訪問】静岡県立三島北高等学校



12月8日【体験】伝統工芸品作り



12月9日【見学】名古屋城



12月10日【学校訪問】愛知県立蒲郡高等学校



12月10日【見学】ガスエネルギー館

# < A コース グループ 3> (訪問地:岐阜県、愛知県)



In the second se

12月6日【テーマに関する視察】グループホーム・デイサービスハッピー桜

12月7日【学校訪問】岐阜県立大垣北高等学校



12月8日【見学】中山道広重美術館



12月9日【見学】トヨタ産業技術記念館



12月9日【体験】茶道体験



12月10日【学校訪問】名古屋市立北高等学校

# <Bコース グループ1> (訪問地:京都府、三重県)



12月6日【体験】友禅染体験



12月6日【テーマに関する視察】花友じゅ らくだい



12月7日【学校訪問】京都府立北嵯峨高等学校



12月8日【体験】ホームステイ(京都府和東町)



12月9日【見学】伊賀流忍者博物館



12月10日【学校訪問】三重県立名張青峰高等学校

# <B コース グループ 2> (訪問地:福岡県、山口県)





12月6日【見学】TOTO ミュージアム

12月7日【学校訪問】山口県立下関中等教育学校



12月8日【見学】長府毛利邸



12月8日【体験】木うそ作り



12月9日【テーマに関する視察】介護老人福祉施設いしずえ荘



12月10日【学校訪問】福岡県立武蔵台高等学校

# <B コース グループ3> (訪問地: 香川県、岡山県)



12月6日【見学】石丸製麺

12月7日【学校訪問】香川県立三木高等学校



12月8日【体験】ホームステイ(岡山県瀬戸内市)



12月9日【テーマに関する視察】特別養護 老人ホーム 旭川敬老園



12月9日【見学】倉敷美観地区



12月10日【学校訪問】岡山県立玉島商業高等学校

## 4. 参加者の感想(抜粋)

## 中国高校生

### Aコース グループ1(訪問地:東京都、栃木県、群馬県)

◆今回の訪日では、私たちは二つの高校を訪問し、日本の高校生活を体験することができた。また、国際医療福祉大学を訪問し、老人介護と高齢者社会の知識について学ぶことができた。この数日の見学や学びを通じて、感じたことがいくつかあった。

まず、中日は一衣帯水の隣国同士であり、東アジアの儒教文化圏にあるため、文化や 伝統的風習に共通している部分が沢山があると感じた。また、両国が高齢者社会の問題 に直面していることも共通している。しかし日本は先進国で、中国はまだ発展途上国で あるため、将来の発展の仕方も違うと思った。国の問題を解決する時は直接他国の方法 を真似するだけではなく、それぞれの国の事情を考えなければならない。

次に、老人介護の分野においては、中国はまだ長い道のりがあると感じた。例えば、 国際医療福祉大学を訪問した際に、体の不自由な患者のための入浴設備を見学したが、 これらの設備は大変行き届いており、先進的だった。中国もこれらの分野にもっと資金 と力を投入すべきだと思う。

最後に、私が一番印象に残ったことを述べたいと思う。群馬県立尾瀬高校を訪問した時に、日本の高校生たちが寒風が吹く中、校舎の外で私たちを待っていてくれて、帰りの時もバスが見えなくなるまで見送ってくれた。また、教室に中国の国旗を掲げて私たちに敬意を示してくれた。日本の大多数の学生や人々が平和と友好を望んでいると感じることができた。

◆日本の学校生活は充実して多彩で、生徒同士の交流や文化活動を重視していた。今回は二つの学校訪問を通じて、日本の高校生の心温かさを感じながら、日本の高校生活を体験することができた。お互いに言葉が通じなかった時もあったが、それが私たちの交流を妨げることはなかった。日本の高校では様々な部活動があり、例えば茶道、華道、弓道など特色ある部活も盛んに行われていた。体育の授業体験では、日本の高校生と一緒に卓球の練習をした。高校訪問を通じて、気の合う友人と出会い、友情が芽生え、連絡先も交換することができた。短い時間だったが、国や文化が違っていても、学校生活は実に沢山の共通点があることが分かった。日本の高校生が温かく受け入れてくれたことは今後忘れることはないと思う。

国際医療福祉大学の訪問では、職業に貴賤はなく、どの分野においても自分のなすべき貢献をしている人々がいることを心から感じることができた。日本は老人介護の分野では大変優れていて、中国は日本の介護における経験をお手本として、老人介護のシステムを整えたほうが良いと思った。

初めて日本を訪問し、第一印象は環境が整い、空港や街、バスの中などにゴミを捨てていないということだ。日本人の民度の高さを感じさせられた。訪日期間中、日本人の礼儀正しさ、ホテルや家の中が清潔なことがとても印象的だった。特に日本の高校では、生徒たちがトイレを含め一斉に清掃をしていた。校舎内で上履きに履き替えることは中国の学校との一番の違いだった。日本人の民度の高さは決して生まれつきのものではなく、幼少期からの教育の成果だと思う。中国人も日本人の高いマナー意識を見習い、国

民の民度を向上させるべきだと思った。

今回の日本訪問で見たこと、聞いたこと、感じたことを決して忘れることなく、日本のいいところを学び、祖国の発展のため貢献したいと思う。

## Aコース グループ2(訪問地:東京都、静岡県、愛知県)

◆静岡県立三島北高校を見学し、第一印象は学校内が非常に清潔であり、場所ごとに靴を履き替えるなどしているためか、床は清潔で汚れ一つなく、目の前が明るくなるような感覚があった。

ガスエネルギー館を見学したのち、私は突然中国のガスの革新技術がまだ不足していることに気づいた。日本の土地面積は狭いが、ガスのイノベーション改革は十分に進んでおり、日本に十分な資源をもたらし、なおかつ環境汚染が起こらないようになっている。今日の生活において、日本のゴミの分別を見習い、自分が排出したゴミは自発的に分別して、物の循環利用を増やそうと思った。

日本と中国はいずれも礼儀の国であることについては、疑義を差しはさむ余地はない。 しかし中国人は早いテンポの生活の中で、礼儀についての意識が希薄化したように思われる。一方、日本はそうではなく、知り合いであろうがなかろうが、自発的に挨拶をするのである。このことは中国とはやや異なっている。

私にとって最も印象深いのは、愛知県立蒲郡高校で共にダンスを踊ったことである。 ダンスの動作は簡単なものであったが、私はこれまでにないほど真剣に踊った。そして 3人の良き友人を得たのである。

◆訪日期間中、私たちは日本社会の高齢化現象やその未来予測、高齢者介護などについての関連知識について全面的に理解を深めた。三島市の老人向け社会福祉施設や横井郁子先生のセミナーを通し、私は日本の高齢者介護への関心度及び異なる行動能力の高齢者に対するサービスの細やかさについて非常に感心した。自治体やNPOでも、協力と分業は非常に明確になされている。このことが私にとっては非常に印象深かった。

日本の言語文化と礼節も印象に残っている。朝の「おはよう」に始まり、食事の前の「いただきます」、食後の「ごちそうさま」、そして様々な礼儀や、儀式感の強い茶道は、私の心の中での日本を「真摯な礼儀」「何事も疎かにしない」国だと印象付け、驚嘆と敬服の気持ちが芽生えた。

ガスエネルギー館やトヨタ博物館の見学も、日本の発達した現代化への歩みについて、 認識と見解を新たにするものであった。

## Aコース グループ3(訪問地:東京都、岐阜県、愛知県)

◆今回の訪日で、学校、日本科学未来館、トヨタ産業技術記念館などを見学した。これらの見学は深く印象に残った。

商業施設で、日本の中学生がエスカレーターの左側で順序よく立っているのを見た。 日本は秩序を重視する国で、子どもたちを小さい頃から教育していると感じた。日本科 学未来館では勉強するはずの平日なのに、小学生・中学生を沢山見た。中国では平日に こうした見学イベントは滅多にない。トヨタ産業技術記念館では失敗の事例が沢山展示 されており、日本人は日々の失敗を大切にし、教訓と経験を学び生かしていると感じた。 一方、中国は展示されているのは成功した偉人とその経歴ばかりだ。

日本の学校では部活動が盛んに行われていた。日本は子ども自ら関心のある趣味を培い、興味のある仕事に導いていっている。一方、中国では大勢の子どもたちは大学受験のため勉強をさせられている。日本科学未来館では、体験できるプログラムが沢山あり、見学者は体験しながら知識を身に付けられる。日本の授業では、先生はタイマーを使い授業を進めていた。また、生徒は積極的に意見を述べていた。沈黙の授業と比べ、生徒の意欲を引き出していると感じた。

老人ホームでは、お年寄りの笑顔に感動した。また、充実した設備と温かい雰囲気にも感心した。一方、中国で寝たきりのお年寄りに太い注射をするところがある。これは 国内のサービスレベルの差によるものである。

今回の日本訪問では友達ができた一方で、恥ずかしい思いもした。帰国後、より多くの人に一衣帯水の日本を知ってもらうために、必ず積極的に日本社会の良いところを宣伝したいと思う。

◆今回の訪日で私たちは岐阜県立大垣北高校と名古屋市立北高校を訪問し、老人介護施 設ハッピー桜を見学した。

両高校の生徒たちがみんな明るくて優しかった。非常に親切に私たちに接してくれた。これは日本の教育環境と関係あるのではないかと思う。一緒に授業を受けて気づいたのは、日本の先生と生徒が仲良く連動することが非常に多く、教室内の雰囲気がとても軽やかで楽しいというところだ。一方中国の授業風景は、大抵緊張感が走りピリピリしている。日本のアクティブラーニングを中国の教室に導入すれば、授業がもっと楽しくなると思う。しかし、極端になると秩序を失う恐れがあるので、適度な活性化がいいと思った。放課後の部活動も非常に多種多様だった。私たちは大垣北高校で剣道部や茶道部を見学した。私にとって非常に興味深かった。名古屋市立北高校の授業中、先生たちが必ずタイマーを持参し正確に時間を図って授業を進めていたことも非常に参考になった。

介護施設では私たちと日本のお年寄りたちがお互いにパフォーマンスを披露し、ゲームを楽しんだ。一緒に忘れがたい時間を過ごした。設備が整っていて、介護スタッフがよく面倒を見ている中、入居者たちが快適に生活していた。これはまさに国が推薦する健康寿命という理念の証だと感じた。ただ長生きを求めるではなく、いかに健康で長生きするかは中国にとっても非常に興味深い共通の課題だ。中国では、老人介護においてまだ完備されてないところが多く、日本を参考にして多く学んだほうがいいと思った。

#### Bコース グループ1(訪問地:東京都、京都府、三重県)

◆今回の9日間の訪日を通じて心が大変満たされ、また様々なことを感じた。

最も印象深かったのがホームステイだった。ホストファミリーはおもてなし好きで、あたたかく迎え入れてくれた。色々と考え、念入りに準備し、細かく手配してくれた。 豪勢な食事の準備をしてくれ、いつも気を配ってもらった。自分の一番好きな宇治茶を 出してもてなしてくれ、地元の味を味わうことができた。一番面白かったのは裏山での ピーナッツ堀りだった。ピーナッツの苗を掘り出して、1 つ 1 つ取ってかごに入れた。1 つを剥いて口の中に入れると、香りが舌の上でほころんで、噛めば噛むほど美味しかった。楽しい 1 日を過ごした。

◆今回の旅については、沢山の経験があった。日本では、公共の場などで静かにし、他人に迷惑をかけないようにしていた。また日本政府が高齢化対策として実施する政策は研究するに値すると感じた。花友じゅらくだいのように、心身両面から高齢者の世話をし、同時に自尊心にも関心を及ばせることは参考にする価値がある。日本の高校を2校訪問し、設備が整っていることや、多彩なクラブ活動、生き生きとした授業を発見することができた。

## Bコース グループ2(訪問地:東京都、福岡県、山口県)

◆今回の訪日活動を通じて、日中文化の違いを強く感じた。様々なプログラムの中、言葉が通じなくても、心と心の繋がりで深く感銘を受けた。出会った日本の高校生たちは礼儀正しく明るく、ホストファミリーはユニークで個性的、様々な人から社会の多様化を窺えた。違う国の方々とどうやってコミュニケーションをとるのか、大変勉強になった。

他にも考えさせられたことが沢山ある。まずは自分自身で、人間性、コミュニケーションカ、礼儀作法、他人に対する思いやりを高めたいと思う。次は社会で、法律を整備し、青少年に対して交通ルールの遵守、列に並ぶ、ゴミをポイ捨てしない、など細かい指導を強化することによって、より良い社会環境を作ることができると思う。最後に、国家で日本の政策制度を参考に自国の状況に合わせ、高齢化に関する政策を打ち出し、かつ実施し、今の教育環境を改善するべきだと思う。

◆日本人は物事に対して謹厳であり、科学的かつ理性的に研究し、真面目だと思った。個人情報が保護されているとも感じた。外国と積極的に交流活動を行い、外国人に対して親切であり、オープンだった。私たちはこれらの長所を取り入れ自分たちの短所を補うべきだと思う。

また、日本には完備された高齢者の社会保障制度があった。科学的な実験、分析を通じて、研究成果を実際の生活や介護活動に活かし、優れた成果と経験を得ていた。日本社会が高齢者の社会参画、尊厳維持を大事にする点も学ぶに値すると思う。

日本教育のキーワードは生きる力。テキストの勉強だけではなく、民度を高める教養 教育を重視していた。学校のクラブ活動種類は中国より多く、盛んだった。また、日本 の法律法令はより完備されていることも学ぶべき点だと思う。

## Bコース グループ3(訪問地:東京都、香川県、岡山県)

◆今回の訪日を通して、私は日本社会に対して新しい認識ができた。日本人は素養が高いと思う。人々は謙虚で、礼儀正しい。社会の治安が良く、秩序があった。都会の中で高層ビルが密集していることは印象に残った。国力の強靭さ、経済の良さ、技術の高さが感じられた。

私は学生として中日両国における教育の相違に関心を持っている。2回の学校訪問で、日本学生の生活に触れ、教育理念と制度の相違について感じ取ることができた。日本の学生がより豊かな楽しい学生生活を送っていることを見て取れた。学校の教育方針として、学生の全面的な発展と専門性のある人材の育成がより重要視されていた。日本の基礎教育が普及されており、これは日本政府の教育への姿勢によるものだと感じた。

ホームステイのホストファミリーについて、高齢者も読書や書道に熱心であり、格調 高い生活情趣を有しており、これは幼少期の教育と密接に関わっていると思った。

高齢化社会と老人介護という訪日テーマに合わせて、私達は旭川敬老園を見学した。 先進的な介護設備、高齢者の心を尊重すること、高齢者への心配りなどは深く印象に刻まれ、私は感動を覚えた。一方、中国では、高齢者に対して、体の健康がより強調されていることから、心への配慮はあまり注目されていない。見学を通じ気づくことができた。日本での短い滞在で、私は多くのものを見聞きし、感じ取った。私にとって、今回の訪日は視野の広がり、現状への思考、未来への期待となり、この機会を提供してくれた日本に対し、またご尽力くださった関係者に対して、感謝の意を申し上げたい。

◆日本はとてもきれいな国で、中国の高層ビルにあまり緑がないのに対して、至る所に 緑の植物があった。これは日本人の努力と協力の結果だ。帰国後、私はゴミ袋を携帯す るようにしたい。率先してゴミ分別を実施し、環境への負荷を減らしたい。

老後生活と高齢者介護について、中日両国の考えと姿勢が異なっていた。日本では、 介護は政府や国の施策によるものだが、中国では、高齢者の老後や介護はその家族と子 供のことだ。講義などで高齢者の視線が若い人より低いということを知り、帰国後高齢 者と話をする時に座ったり、しゃがんだりして、より良いコミュニケーションが取れる ようにしたいと思う。

私は日本の美しい景色に驚かされ、日本の民俗・風習に陶酔されたと同時に、人に優しい社会が形成されていることを感じ取った。例えば、多機能トイレ、地面など随所にある案内表示、滑らかな茶碗蒸し、きれいな包装、美味しい料理とその盛り付けなどは日本人の繊細さ、優しさ、物事に対する真面目さの表れだと思う。帰国後、私は生活の中のあらゆることに対して真剣に臨みたいと思う。

私達は日本の教育が羨ましいと感じる。放課後に多彩なクラブ活動があり、生徒の個性が尊重され、伸び伸び成長していく環境が与えられ、楽しい授業によって教師と生徒が親しい関係にある点などが挙げられる。中国の生徒にとって学校の勉強は大変だが、その大変さによって多くの人材が育て上げられた。中日両国の教育において、互いに学び合い、互いに改善していくべきだ。

今後、私はより多くの機会を捉えて自分の特徴や個性を伸ばしていきたいと思う。私たちの交流によって、中日両国の友好関係は更に堅固になり、中日両国の未来は更に明るくなると信じている。

#### 5. 受入れ側の感想

## Aコース グループ1

### ◆ 日本高校生

今回、中国の方々と話してみて、何かを伝えたい、という姿勢にすごく感動しました。 英語はあくまで第二言語であり難しいところも多いと思いますが、私たちにわかりやす く説明するために言葉を探してくれたり、時には写真を見せてくれたり、そういった姿 勢がとても印象的でした。

そのおかげもあってか、私たちのグループも前のめりになって話を聞いて、積極的に 会話に参加していたので、不安だった時間があっという間でした。

### ◆ 日本高校生

文芸部では折り紙で交流しました。中国の生徒は手先が器用で、自分たちよりも上手にできていて、すごいという印象を受けました。日本の伝統文化として、知ってもらい楽しんでもらえたら嬉しいです。

今回の交流だけでなく、このような体験を通して、両国の高校生が架け橋となり今後 の友好関係を築いていきたいです。

## **◆** ホストファミリー

中国の良いところ、日本の良いところを聞かせてくれました。大気汚染がひどく、日本の空や景色の綺麗さに感動していたようです。

### Aコース グループ2

#### ◆ 日本高校生

私は中国人との交流は初めてでとても緊張しました。出迎えた時、中国の皆さんが笑ってくれたので、緊張がほぐれました。グループに分かれて教える時、はじめは全然話せず、どうやって進めたらいいのか分かりませんでした。しかし、こちらが「レッツ・トライ・ダンス!」というと、「お願いします。」と日本語で返してくれ、そこから打ち解けることができました。言葉は違っても、国境を越え、楽しむことができ、とても良い経験になりました。

#### ◆ 日本高校生

今回の交流はとても楽しく、良い経験になりました。私は、この交流で言葉の壁があることは、決して悪いことではないと思いました。今までは英語が公用語の人と、英語を使ってコミュニケーションを取ることがほとんどでした。しかし、今回はお互いが慣れない英語を使いながらの交流でした。最初はうまく話せるか心配でしたが、お互い流暢に話せない状況が、お互いの距離を縮め、コミュニケーションが取り易いことに気付きました。身振り手振りで説明したり、簡単な単語を使ったり、話を聞く側も、相手の声にしっかりと耳を傾け、言いたいことを汲み取ろうとする意志が伝わりました。

## Aコース グループ3

## ◆ 日本高校生

はじめのうちはすごく不安でした。私自身、中国人と話したことがなかったので、どう関わればよいのか心配事がたくさんありました。でも、私のクラスに来てくれた2人は私のカタコトの英語も一生懸命聞いてくれて、コミュニケーションがとれたときはとても嬉しかったです。古典の授業では漢詩について詳しく説明してくれたし、中国語での発音もたくさん聞けて、とても新鮮でした。日本の作家(太宰治等)の本を読んでいる子もいて、日本文化が広まっていることを誇らしく思いました。

たった1日のみの交流でしたが、連絡先を交換した子もたくさんいるし、プレゼントをくれた子もたくさんいます。ずっと連絡を取り続けていたいし、今度は私たちが中国へ訪問したいと思います。

## ◆ 日本高校生

イメージでは、中国の方は日本人に対してあまり友好的ではない、親日的ではないと思っていました。しかし、いざ触れ合ってみると全然そんなことはなく、とても積極的に話しかけてくれて、イメージがガラっと変わりました。中国の子たちと触れ合ってみると、より日本人の感性に近いものがあり、とても話しやすいなと感じました。その中の一人の子と、名前の中に同じ漢字が使われていたのが嬉しかったです。

## ◆ 学校関係者

歓迎会では中国人高校生が熱のこもったパフォーマンスをしてくれました。授業参加の時間には、中国人高校生に2名ずつに分かれて各授業に入ってもらいましたが、日本人のリアルな授業を体験してもらえたので良かったと思います。お見送りの際には、見送りの生徒と別れを惜しみ、記念撮影が行われていました。両国の高校生にとって、これからの日中関係のためにも、全体としてとても有意義な交流であったと思います。

#### Bコース グループ1

#### ◆ 日本高校生

最初こそ緊張して話せなかったものの、数学の授業で協力し、折り紙をして、校内を 廻り終わるころにはすっかり打ち解けていました。こちらの日本人の班も中国の生徒た ちも笑顔で、とても良い雰囲気でした。特に郷土研究部に行って、見学後、体験しても らったのは、中国の生徒にとって思い出になっていると良いなと思います。私たちが折 った折り紙を持ち帰ってくださり、とても仲良くなれたのではと感じています。

とても楽しく、有意義な時間を有難うございました。

#### ◆ 日本高校生

自分は英語で話しかけられたときに理解できなくて、返すことができなかったときもありましたが、スマホの翻訳機能を使って話しかけてくれて、とても助かりました。あまり多くは話せませんでしたが、一緒に話していてとても楽しかったです。

初めて会う外国人が沢山いる中、嫌な顔一つせず、笑顔で接している中国の高校生の

姿を見て、自分にはとてもできることではないと思いました。また、みんな挨拶を積極的にしていて、自分たちも見習うべきだと思いました。

#### ◆ ホストファミリー

中国の文化を知ることができ、また、日本の良さを言ってもらい、改めて日本人として嬉しく思いました。とても優しく、思いやりのある学生たちで楽しいひと時でした。

### Bコース グループ2

#### ◆ 日本高校生

外国の方と関わることなど滅多にないので、大変貴重な体験となりました。特に中国 や韓国などの東アジアに興味を持っているので、より嬉しかったです。少しの時間で、 中国の事情や中国人の特徴、中国の文化を知ることができました。この交流会を通して、 中国によりいっそう興味が湧いてきたし、とても行きたくなりました。中国の皆さん、 日本に来てくれて有難うございました。また日本に来てください、待っています。謝謝!

#### ◆ 日本高校生

男女問わず、国境を超えて交流し、仲良くなれたと思います。中国の学生はフレンドリーで、英語で積極的に話してくれたので、私も話しやすく、また多くの話をすることができました。このような交流を通して、また日本と中国の交流が増えていけばいいなと思いました。今回、中国の学生と出会うことができ、本当に嬉しく楽しかったです。中国について、より興味を持つことができたので、今後もこの交流を活かしてより深く中国のことを知っていきたいと思いました。

## ◆ ホストファミリー

華道の先生をしているので、地域の華道教室にも参加してもらいました。言葉は分かりませんが、身振り手振り、はさみで花を切って右から生けるなど、見本を見せて生けてもらったところ、とても上手にできました。お手伝いも積極的にしてくれました。

#### Bコース グループ3

## ◆ 日本高校生

今日の交流は、とてもいい経験になりました。英語がとても苦手で上手く話せるか 心配だったけれど、明るく話しかけてくれてとても楽しい一日になりました。

また、中国の高校生は朝の 6 時半から夜の 10 時 20 分まで勉強していると聞いて、 感心させられました。自分たちも負けていられないな、と思いました。この経験が自 分にとって意味のあるものになるよう、これからの生活も頑張りたいです。

#### ◆ 日本高校生

初めて海外の方と話をしました。話していくうちに仲良くなり、たどたどしい英語を理解してくれたり、お互いの文化を教えあったりしました。会うまでは、「どんな人だろう」と緊張し、「どうしよう」と思っていましたが、とても楽しく、言葉の壁を乗り

越えて友達になれたのではないかと思います。中国のことを知っていくうちに、自分の イメージしていたものとは違うことがたくさんありました。

最後、別れるとき、初めに思っていったことが嘘のように、さみしく、別れたくないなと思いました。また機会があれば交流してみたいです。

## **◆** ホストファミリー

純粋な優しい学生たちでした。英語が堪能ではないので、携帯電話の通訳アプリケーションを頼りに、お互いコミュニケーションを取りました。積極的に話しかけてくれ、子ども達も「自分から話しかける勇気を持つ」という今回のミッションを全員クリアすることができました。

## 6. 参加者の対外発信





歓迎会についての発信 JENESYS2018 中国高校生訪日団第三陣 歓迎パーティ。

高校生/Weibo

見学についての発信 東京の景色はこの国の人々と同じで、き れい。

高校生/Weibo

高校生/ブログ





天候についての発信 天候が異常です。 プログラムについての発信 東京の2日目、明日は東京を離れます! みんなのことをとても思っています!

× 【中日友好共创未来】--20...

## 高校生/ブログ

※ 【中日友好共创未来】 --20... ...

【中日友好共创未来】 --2018年江西省赣州市第三中学访日之行圆满成功

[中日友好共创未来】 --2018年江西省赣州市第三中学访日之行圆满成功
阅读6529Eors

2018年正值中日和平友好条约缔结40周年,赣州市第三中学的15位优秀学生代表以及副校长胡洁玲,于12月1日至12月13日在我圆教育部

2018年正值中日和平友好条约缔结40周年,赣州市第三中学的15位优秀学生代表以及副校长胡洁玲,于12月1日至12月13日在我国教育部和日本JENESY8相关工作人员的带领和指导下,先于北京进行行前培训,再远赴日本分别在东京、福冈、山口度过了忙碌而充实的13天旅程。

※ 【中日友好共创未来】 ——20....

老龄化社会与老年福祉是我们本次出访的研究。课题。日本,在作为发达国家的同时,也是世界上人口老龄化战严重的国家之一,其老年人
历占比例甚至超过了30%。而中国因为老年人口数量大,其增长速度使中国较其他国家提前进入老龄化社会。因此,为了减小未来经济和社会发展的压力,借鉴日本的应对措施就显得很有必要。

首先是由东邦大学的模并郁子教授主持的老龄化主题讲座,模并教授抓住"身体变化"这一关键词,呼吁大家充分发挥老年人能力和价值。

20

## プログラムについての発信

【中日友好、共に未来を築く】中日平和友好 条約締結 40 周年にあたる 2018 年の 12 月 1 日 ~12 月 13 日まで、贛州市第三中学校の優秀 な生徒代表 15 人と胡潔玲副校長は、中国教育 部と日本 JENESYS 関係者のご手配とご指導の もと、北京で事前研修を受けた後、日本を訪 問し、東京、福岡、山口などハードで且つ充実 した 13 日間を過ごした。

## セミナーについての発信

高齢化をテーマにした東邦大学の横井郁子教授の講義で、「加齢に伴う体の変化」というキーワードを切り口に、高齢者の能力や価値を十分に発揮するよう呼びかけていた。

## 高校生/ブログ



## 高校生/ブログ



#### 見学についての発信

浅草寺で、みんなは自分の願いを境内の神様 に伝えたりして幸福を祈る。 ホストファミリーについての発信 ホストファミリーとお別れした際に、私 たちがどんなに遠く離れて行っても一所 懸命に手を振っていた。遠く離れていく 中で、ホストファミリーがどんなに小さ くなっても、この最後の場面をカメラに 収めようとしている。

# 7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表



## **<Aコース>**

- ・帰国後、学校で理科部を新設する。未来 への予見、生徒同士のコミュニケーション を重視し、部員全員参加できる活動を行う。
- ・帰国後、学習研究活動を行う。中国老人 福祉施設の現状や遅れをとっている原因、 及び関連施設の研究開発、導入について障 害となっていることがないか調査する。
- ・学校が計画する学級会や学年会において、訪日報告演説会を行い、学校の仲間と 情報を共有し、日本での訪日日程と感想について交流する。
- ・訪日期間の見解と自ら収集した資料を基に、「高齢者地域養老サービスセンター」をテーマとして調査と研究を行い、中国の実際状況に基づき、中日両国についての比較を行い、最終的には研究終了後の成果を文章の形式で編集し、日を改めて再度関連展示と報告会を行う。
- ・日本に対する関心を長く高め、SNS やニュースや新聞で日本に関する情報を入手し、 更に自分からも発信する。



#### <B コース>

- ・中国に帰国後、私のクラスメートたちと 今回の訪問で見たこと・聞いたことを共有 し、彼等と今回の経験について話し合う。
- ・「高齢化社会」をテーマにクラス単位のワ ークショップを行う。
- ・ウェブサイトを通じて日本の情報を収集 し、イベントや交流活動に協力する。
- ・日本語を勉強し、日本のポップカルチャ

(音楽など) をより理解したい。

- ・訪日報告会を開くよう、学校の先生に提案したいと思っている。日本で見聞きしたことや、感じたことについて他の生徒達に伝え、日本社会や日本文化を知ってもらい、感想を共有する。
- ・高齢者に対して関心を払い、週末に友人を召集して老人ホームを訪問し、ボランティア活動を行う。高齢者との関わりの中で体得したことを文章にし、ワークショップで議論する。